



<https://www.sathyasai.org/buddha-poornima/2021>

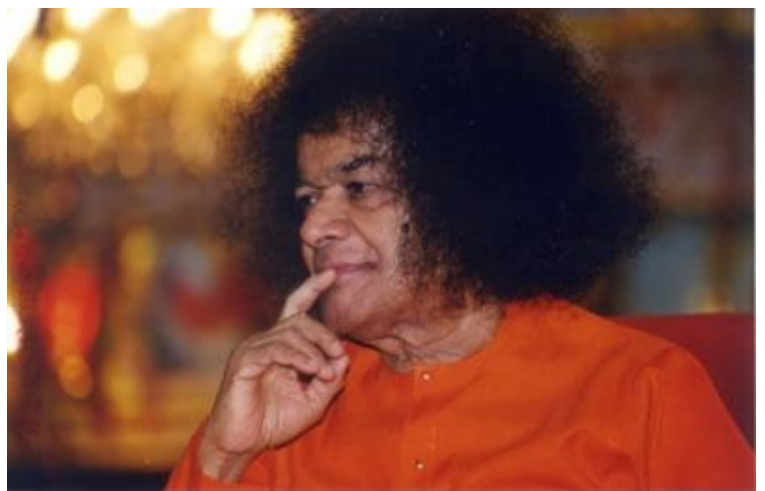
仏陀プールニマー2021

真の幸福への鍵 —三宝に帰依し奉る—

シッダールタ、仏陀になる

紀元前6世紀、ガウタマ シッダールタは真理を求める旅に出発し、菩提樹の下で悟りを開きました。シッダールタは、物質世界の苦しみから逃れるため、永遠なるものを探求したのです。この旅の結果、彼は「目覚めた者」、すなわち仏陀となりました。

彼は、儀式や苦行によっては、最終目的地に到達できないことを知りました。なぜなら、その旅は、普遍の叡智が宿る「自己」を見つめるために内面に向かうものであったからです。自分自身の真実を見出すという究極の最終目的地に到達したとき、彼はアーナンダ（至福）を体験しました。



それからの仏陀は、四諦を教え伝えることに生涯を捧げました。四諦とは、①苦諦：迷妄に満ちたこの世の一切は苦である、②集諦：苦の原因は煩悩と執着にある、③滅諦：執着を断てば苦の原因は消滅する、④道諦：悟りに至る道は八正道である、という四つの真理のことです。

この一時的で儚い世の中において、限度も終わりもない欲望を抱いていることが、人間の苦しみの原因です。人間の執着は、無常の世界で永遠の幸福が得られるという誤った考えの上に成り立っています。悲しいかな、人間は、友人や親族が己の束縛の原因であることを知りません。実際のところ、多くの人間関係が不幸を引き起こしています。

仏法の三宝、すなわち、ブッダ（仏）、ダルマ（法）、サンガ（僧：霊性求道者のコミュニティ）に帰依する者は、四諦を理解するとされています。この三帰依文は、仏教の至高の祈りです。

仏陀の教えの中心にあるのは、八正道の実践です。仏典には「これがその道である。心の浄化につながる他の道はない。この道を進み、マーラ（悪魔）に打ち勝ちなさい。この道は、苦の終焉へと導くだろう。これは、不幸という矢が去った後に、私が知らせる道である」と書かれています。「自分」も「苦」もない清らかな智慧へと導く道、それが中道です。

八正道

八正道とは、「正見」「正思惟」「正語」「正業」「正命」「正精進」「正念」「正定」のことです。これは靈的に高貴な道です。

ムクティ、解脱とは、苦から解放されることです。三宝に帰依し奉る、とは、解脱を達成し、唯一の真理であるニルヴァーナ（涅槃）という最終目的地に到達するための手段です。これらは密接に関連しています。涅槃に到達するためには、純粋なハートを持つべきだと言われています。本当に、仏陀は、日常生活のあらゆる面において完全に清らかであることを重視していました。

仏陀はまた、真我は一つであるという原理を認識し、この真理を人生の基盤としていました。

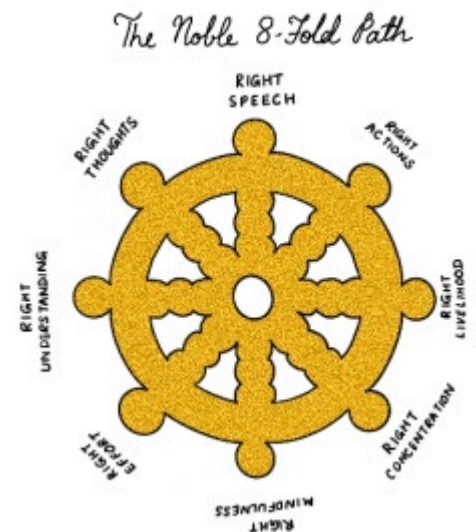
『ギター ヴァヒニー』の中で、バガヴァン シュリ サティヤ サイババ様は次のように書いています。「シュティタプラグニャー（揺るぎない英知の持ち主）が没入している至福は外界の物質からは生じません。彼はそれらのものを必要としないのです。至福は全ての人の内に、その人の本性の一部として存在しています。純粋な意識を持つ人は、自分自身の実体であるアートマを認識することの内に、最上の至福を見出すのです。」

仏陀は永遠に生きています。それは、王家に生まれ、生まれながらにして持っている特権を放棄して真理を追い求め、とうとう悟りを得、人を涅槃へと導く新しい道を宣言した王子の、高貴で神聖な物語の中だけではありません。人間が仏となり得ることを示す最高の理想として、仏陀は生き続けているのです。私たち全員の内面には、仏陀に、すなわち『目覚めた者』になる可能性が眠っているのです。

三帰依文—三宝に帰依し奉る

1996年5月15日にプラシャーンティ ニラヤムで祝われた仏陀プールニマー祭で、シュリ サティヤ サイババ様は、三帰依文の意味を説明なさいました。それは、人は、ダルマ（正義）を守るために、ブッディ（悟った知性）を使って社会活動に従事すべきだということです。言い換えれば、ブッディはダルマの道に従うべきであり、ダルマは社会の中で育まれるべきものです。これが行われると、社会は浄化されます。

この同じ祭典で、バガヴァン ババ様は、非暴力の遵守がダルマの最高の形であり、非暴力はトリカラナ シュッディ（心と話し言葉と肉体の清浄さ）を伴って実践されるべきであると説明なさいました。



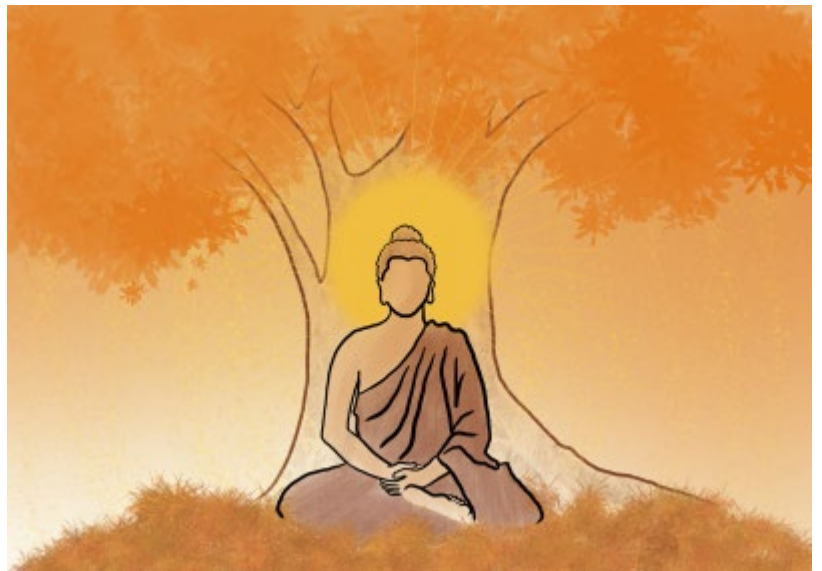


シュリ サティヤ サイババ様は、2006年5月30日にプラシャーンティニラヤムで祝われた仏陀プールニマー祭の最中に、アートマは一体であるという原理が、世界で唯一の真の原理であることを理解するために、人は自分のブッディを使うべきであると説明なさいました。この一体性を体験するためには「あなたと私」という二元的感覚を手放さなければなりません。この日、シュリ サティヤ サイババ様は、サッティヤム シャラナム ガッチャーミ（真理に帰依し奉る）、エーカム シャラナム ガッチャーミ（唯一性の原理に帰依し奉る）、プレーマム シャラナム ガッチャーミ（愛に帰依し奉る）という追加の祈りを私たちに授けてくださいました。愛のない人間は存在しません。

真の幸福の源と泉は自分の中にあります。それは、外から得られるものではありません。至福は、真我の悟りから、つまりアートマ（真我）から生じます。バガヴァン シュリ サティヤ サイババ様は「幸福とは神と一つになることである」とおっしゃっています。

仏陀プールニマー - 三重に祝福された日

仏陀プールニマー（ヴェサク）は、仏陀の生涯における三つの重要な出来事、すなわち誕生、成道、涅槃を祝う、仏教暦の中で最も神聖なお祭りの一つで、ヴァイシャーカ月（四月下旬から五月中旬）の満月の日に行われます。シュリ サティヤ サイババ様は、特に教育者や学生や青年たちを前に行われたいくつかの御講話の中で、人はシャンカラ（不二一元論を提唱した思想家）の頭脳、仏陀のハート、ジャナカ王（インドの有名な皇帝）の手を持たなければならないとおっしゃいました。



仏陀の御名と御姿は、慈悲と平安という至高の特質を想起させます。その理由は主として、非暴力（アヒムサー）の原理に根ざした犠牲と清浄という生涯を仏陀が歩まれたからです。

仏陀プールニマー祭を祝う準備をしながら、私たちは仏陀の御教えを深く考え、そこからインスピレーションを得て、己のハートに染み込ませ、内面を見つめて、真我の悟りを求めましょう。また、この聖なる日に、シュリ サティヤ サイババ様が仏陀プールニマー祭で説かれた神聖な御教えを思い起こしましょう。

初めてオンラインで行われるこの吉祥の祭典のテーマは「真の幸福への鍵 — 三宝に帰依し奉る」です。この唯一無二の祭典では、多くの国の帰依者たちが協力して作り上げたプログラムの中で、甘露のごときメッセージが分かち合われます。皆さんがこのプログラムに参加して、仏性を実感認識することから得られるアーナンダ（至福）に到達することができますように、謹んでお祈り申し上げます。